

生物多様性に関する講演会

自然共生サイトを起点に、地域の 「自然・人・資金」をつなぐ

唐津市「唐津・海の森 共創プロジェクト」

ー 地方創生×ネイチャーポジティブの地域共創モデル ー

自然共生サイト

×

共創・研究

×

独自財源

・プロフィール

梶 崎 徹

T o r u N a r a z a k i

唐津市役所 市民環境部 環境課
カーボンニュートラル推進係 副主査

民間企業就職、関東圏自治体入庁（転職）
保健所設立準備に従事

Jターン唐津市 令和3年4月入庁
令和3年4月～ 環境課環境・リサイクル係
令和6年4月～ // カーボンニュートラル推進係

大学卒業後企業にて人事・法人営業に従事後、埼玉県川口市役所に転職。川口市役所では中核市移行に伴う市保健所の準備・開設に携わる。新型コロナウイルス感染症の流行を機に佐賀県唐津市役所へ転職する。唐津市役所では環境課に配属され、地域の環境・社会・経済が一体となった持続可能なまちづくりを目指す「唐津市版地域循環共生圏の実現」を目指して脱炭素分野やネイチャーポジティブ分野の業務に従事している。

ぜひお気軽にご連絡ください。

Mail:narazaki-
tooru@city.karatsu.lg.jp



地域特徴 (唐津市)

唐津市概要

【人口】 112,917人(2025.6時点)

【面積】 487km²

【産業】 農業(ハウスみかん、苺、佐賀牛)・水産業・伝統工業(唐津焼)

【交通】 福岡市から車60分、電車70分



海・山・川・里が30分圏内、 福岡都市圏と隣り合う自然資本の拠点

海

玄界灘

リアス式海岸と藻場。水産業（イワガキ・カキ・クロメ）・観光資源

山

天山山系

市域の約 1/4 が森林。木材利用・水源涵養・生物多様性

川

松浦川流域

里海里山を縦につなぐ。水産・農業・観光の連結軸

里

田園と歴史

棚田・唐津焼・曳山祭。伝統産業と暮らしが息づく

— KARATSU BASIC PROFILE —

都市と自然の結節点

人口

112,917

2025.6時点

面積

487 km²

松浦川流域含む

福岡市中心部

50km

1時間圏内

電車で

90分

JR筑肥線 西唐津↔福岡

森林面積

2.5万ha

市域の約 1/4

基幹産業

農林漁業

+ 伝統工芸・観光

福岡55km・佐賀50km圏。
都市の経済圏と里海の生態系が直接つながる稀有な立地。

→ URBAN CONNECTIVITY

消費地と生産地が
隣り合う関係人口の
発生しやすい距離感

福岡市

50km / 車 60分

九州最大の経済圏

佐賀市

50km / 車 約70分

県庁所在地

— KEYWORDS

玄界灘

鏡山

虹ノ松原

唐津焼

曳山祭

棚田

水産業

農業



都市圏の経済機会と 豊かな自然資本をつなぐ

ネイチャーポジティブ経済の最適地

KARATSU CITY HISTORY

唐津市の歴史

大陸交流が育んだ港湾都市の、五つの時代

SAGA / KARATSU

A timeline of five eras

B.C. — 1500s

1580s — 1600

1603 — 1868

1868 — 1945

2005 — Today

01 古代・中世



稲作の黎明・末盧国

Naehata Site / Matsura

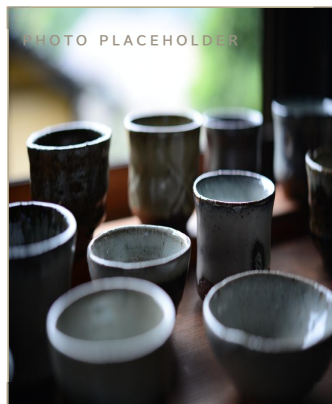
02 安土桃山時代



名護屋城・大名陣屋

Nagoya Castle Ruins

03 江戸時代



唐津城・唐津焼・くんち

Castle / Pottery / Festival

04 近代



石炭・港湾・近代建築

Coal Port / T. Kingo

05 現代



観光立市・世界遺産

UNESCO Heritage

唐津市が目指す方向性

唐津市「ゼロカーボンシティ宣言」(R5.3.27)



唐津市ゼロカーボンシティ宣言

私たちのまち唐津は、海・山・川の豊かな自然を有し、唐津くんちや唐津焼といった伝統や文化など、人々を魅了する地域資源に恵まれたまちです。

先人より引き継がれた、この豊かな環境とともにまちの持続的な発展に向けて、「海・山・川と人が響きあう唐津」を望ましい環境像として掲げ、これまで環境施策を展開してまいりました。

近年、世界各地では、猛暑や豪雨など、地球規模での温暖化が原因とみられる異常気象による災害が多発しており、もはや「気候変動」から「気候危機」と言うべき深刻な状況にあります。

本市においても例外ではなく、これまでに経験したことのない豪雨や台風等により甚大な被害が発生しています。

こうした状況を踏まえ、2015年に合意されたパリ協定では、「産業革命以前からの平均気温上昇の幅を2度未満とし、1.5度に抑えるよう努力する」との目標が国際的に広く共有され、2018年に公表されたIPCC（国連の気候変動に関する政府間パネル）の特別報告書では、この目標を達成するためには、「2050年までに二酸化炭素の実質排出量をゼロにすることが必要」とされています。

唐津市は、国際社会の一員として、脱炭素社会の実現に向けて、2050年までに本市の二酸化炭素排出量を実質ゼロにする「ゼロカーボンシティ」に、市民や事業者、行政の「オール唐津」で一体となって取り組むことをここに宣言します。



令和5年3月27日

唐津市長

峰 達郎

カーボンニュートラルとネイチャーポジティブ

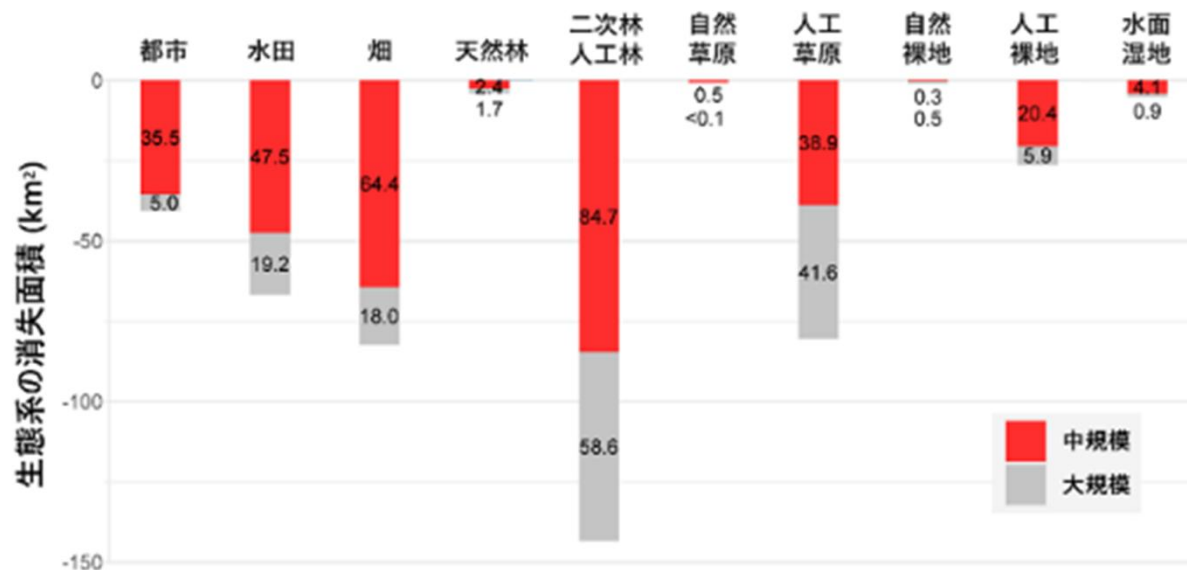
大規模太陽光発電施設(メガソーラー)

発電時にCO2など
温室効果ガスの排出がない

森林伐採に伴う
自然生態系の破壊



太陽光発電施設建設によって失われた生態系の面積



(参考) 国立環境研究所「太陽光発電施設による土地改変」

Nature Positive Forum 九州 #1 KARATSU (R7.3.28)



「唐津市ネイチャーポジティブ宣言」
全国の自治体では17例目、佐賀県内の自治体で初の宣言。

「唐津市ネイチャーポジティブ宣言」(抜粋)

唐津市は、国際社会の一員として、ゼロカーボンシティの推進とともに、以下の3つの目標のもと、市民や事業者、行政の「オール唐津」で、「ネイチャーポジティブ」の実現を目指すことをここに宣言いたします。

1. 唐津の古来より人と共生してきた里地・里海といった自然環境を尊重し、自然資本の持続可能な利用・保全を推進します。
2. 生物多様性による恩恵とそれによる人間の幸福(ウェルビーイング)をもたらすネイチャーポジティブの実現のため、脱炭素や循環経済、防災、地域活性化などの諸課題も含めた一体的な解決を目指す「唐津市版地域循環共生圏(ローカルSDGs)」を推進します。
3. 社会・経済が自然資本に依存していることを自覚し、豊かな生態系を維持し回復させる社会経済活動を企業や研究機関等のステークホルダーと共に推進します。



ネイチャーポジティブの実現を目指して

本市は、豊かな生態系、農水産物、歴史・伝統などの美しい景観資源に恵まれた地域です。

これらの自然資本を基盤として、産業、観光、防災などの分野における価値を高めながら、自然の回復と地域の発展が同時に進む「ネイチャーポジティブなまちづくり」を目指します。

カーボンニュートラルとネイチャーポジティブの両立を図り、生物多様性の保全・回復、流域全体の生態系再生に資する環境再生の取り組みを推進することで、自然資本を守り、育て、活かす新たな価値創出につなげていきます。

また、行政、企業、地域団体、市民など多様な主体が積極的に連携・協力し、自然資本と調和した多様なビジネスや活動が生まれ、共創される環境を整えることで、**外部環境の変化にも柔軟に対応しながら、地域の活力が持続的に高まるまちの実現を目指します。**

本市は、自然の回復を成長の原動力とするネイチャーポジティブの考え方を地域経営の中核に据え、持続可能な地域づくりの先行モデルとなることを目指しています。



唐津市「ゼロカーボンシティ宣言」×「ネイチャーポジティブ宣言」



「脱炭素」だけじゃない。「自然の再生」だけでもない。
唐津市は、人と自然と経済が調和する“まちの未来”を創ります。
持続可能な地域社会の“未来への実験場”、それが唐津です。

唐津市における地域循環共生圏とネイチャーポジティブの沿革

脱炭素からネイチャーポジティブ、5R2プロジェクトへの発展

令和2年 — 令和8年
2020 — 2026

① 基盤構築期

令和2年
「唐津市脱炭素イノベーションによる地域循環共生圏事業」開始

令和5年
唐津市ゼロカーボンシティ宣言 発出



② 体制強化期

令和6年
環境省「地域循環共生圏づくり支援体制構築事業」採択

令和6年4月
環境課 カーボンニュートラル推進係 設置(専門部署創設)

③ ネイチャーポジティブ展開期

令和7年7月
東北大学とネイチャーポジティブ連携協定 締結



令和8年1月
「唐津ネイチャーファイナンス研究会」設立
みずほ銀行・東北大学・富士通 ほか



令和7年3月
ネイチャーポジティブフォーラム九州#1 KARATSU 開催／唐津市ネイチャーポジティブ宣言 発出



令和7年9月
「自然共生サイト」認定
唐津市・漁業組合



★ 施策
令和8年4月
唐津5R2プロジェクト 開始
市庁内横断プロジェクト：唐津市全域展開

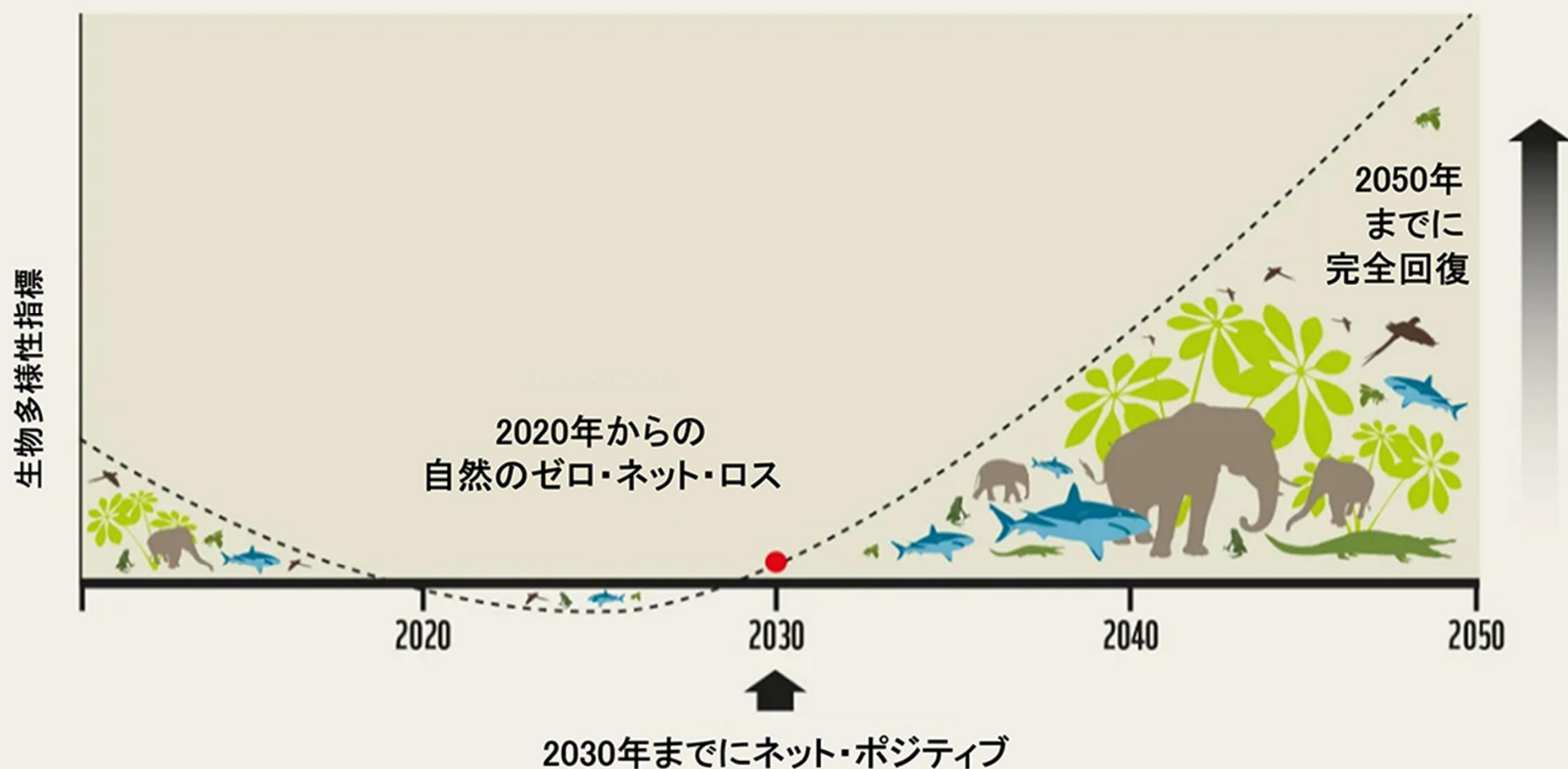
年月:太字・深緑

大学・企業名:イタリック・色付き

■ オレンジ:最重要

ネイチャーポジティブとは？

自然のための世界目標：2030年までのネイチャーポジティブ



ネイチャーポジティブとは、
「自然を守る」だけでなく、
自然を回復させ、自然の恵みを
将来にわたって活かしていく考え方です。

自然共生サイト

串浦の藻場を未来へ繋げるうみづくり

「認定」から「共創プロジェクト」へ

袈裟丸 彰蔵氏（鎮西町串地区）

20年以上前から、磯焼けを食い止めるガンガゼ（食害生物）の密度管理などの活動を行い再生に成功した藻場において、J-ブルークレジット
2022年（41.1 t） 2023年（35.3 t）
2024年（18.5 t） 2025年（21.4 t）
計116.3 t の認定を得た。

また、ブルーカーボンの活動をと
して各種講演会、プロモーションを
行っている。

さらに、唐津市にてブルーカーボン
やネイチャーポジティブの取組を推
進するために「一般社団法人
BLUEREVIVE」を立ち上げ、イベント
の開催や啓発活動を行っている。



「認定」から「共創プロジェクト」へ



袈裟丸 彰蔵

全国漁青連理事／佐賀玄海漁業協同組合鎮西町統括支所

地元の高校を卒業後すぐに海士漁業に従事。新人の頃は、禁漁期以外は毎日のように海へ潜り赤ウニやアワビを漁獲していた。2000年頃、地元の藻場の変化にいち早く気づき、磯焼けが全国的な話題になる以前から、植食生物の駆除をはじめとする藻場保全活動をする。現在では、佐賀玄海漁協青壮年部メンバーや地元漁業者と協力し、植食生物の駆除を行う傍ら、全国各地にて藻場保全についての講演を行うなど活動中。



自然共生サイト 認定のメリット？

ここで大事なこと

ここで大事なのは、
自然共生サイトがゴールではないこと。



例えば

「自然共生サイトに
認定されること」
だけを目指にする。



ではなく
地域が目指す姿



そのために必要な自然



自然を維持・回復する取組



その取組を継続する仕組み



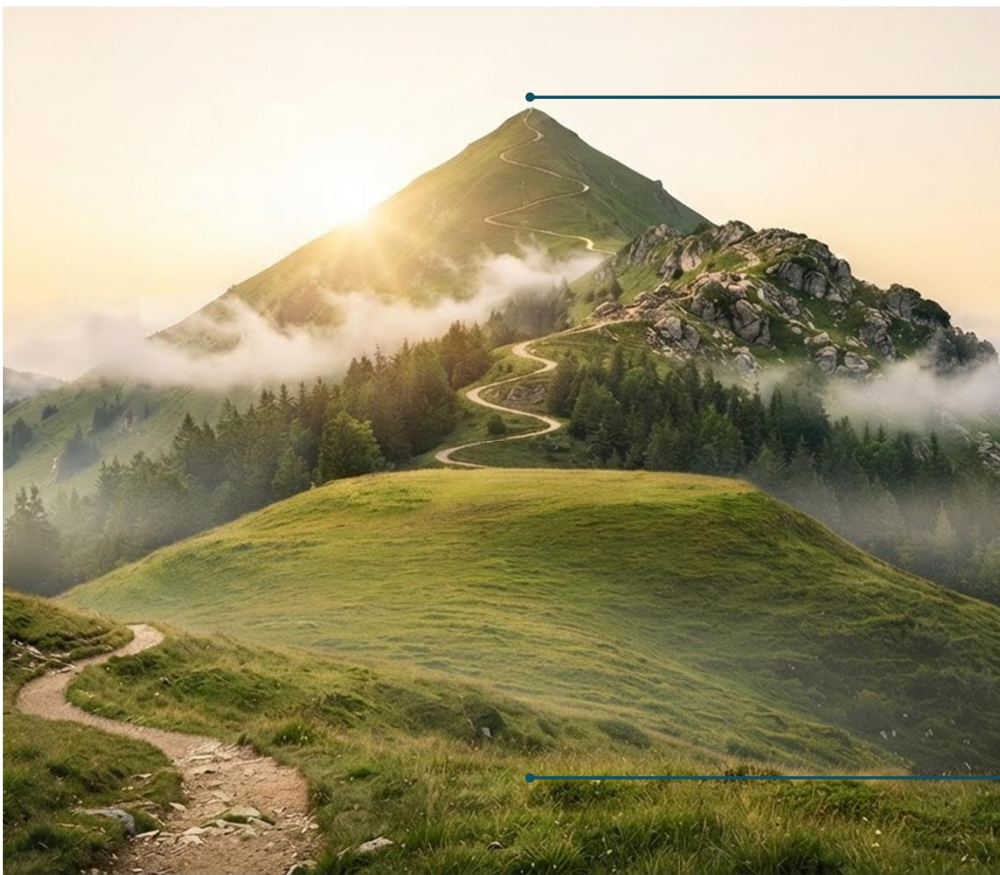
結果として自然共生サイトになる

順番を、取り違えない。

認定が先にあって、地域があとから来るのではない。

山の上り方＝地域のありたい姿

自然共生サイトの認定は、山登りでいえば頂上ではなく、中腹の目標です。大切なのは、認定を取ること自体ではなく、その先にどんな地域をつくりたいのかを見定めること。そして、地域が自分ごととして取り組むオーナーシップ、多様な主体と一緒に進むパートナーシップ、自然保全と地域課題の同時解決を通じて、みんなでその頂上を目指していくことが重要です。



頂上を見定める – 地域のありたい姿を描く

頂上を決めます。

自然共生サイトの認定そのものを目的にするのではなく、自然を守りながら、地域の産業や暮らし、文化が将来にわたって豊かであり続ける姿を描くことが重要です。

例えば、海の森が再生し、魚介類が豊かになり、漁業が持続し、地域に仕事や交流が生まれる。こうした自然と社会・経済がともに豊かになる地域の姿が、目指すべき頂上です。

山登りの前準備 – 頂上を目指すための土台づくり

山登りを始める前には、まず頂上を目指すために、誰と登るのか、どのようなルートで登るのかを考え、必要な装備や体制を整えることが大切です。自然共生サイトを地域づくりにつなげるためにも、同じような準備が必要です。

唐津の場合

「認定」から「共創プロジェクト」へ

令和7年度に形成された地域の基盤を起点に、令和8年度に始まる「共創プロジェクト」が地域のモデルとして持続する姿を目指して

令和7年度

唐津市 × 佐賀玄海漁業協同組合

「唐津 串浦ふるさとの海」

連携増進実施計画認定



地域の自然共生サイトを保全の場だけでなく、
地域の自然・漁業・地域活動をつなぐ基盤として位置付けた。
ここが共創プロジェクトの起点となる地域のプラットフォーム(基盤)

【令和7年度の到達点】
地域の価値を「守る」基盤が形成された

地域の価値



地域の価値
「測る・研究する・高める」

令和8年度

唐津市 × 東北大学

自然共生サイトをフィールドとして 「藻礁比較検討プロジェクト」を企画・開始

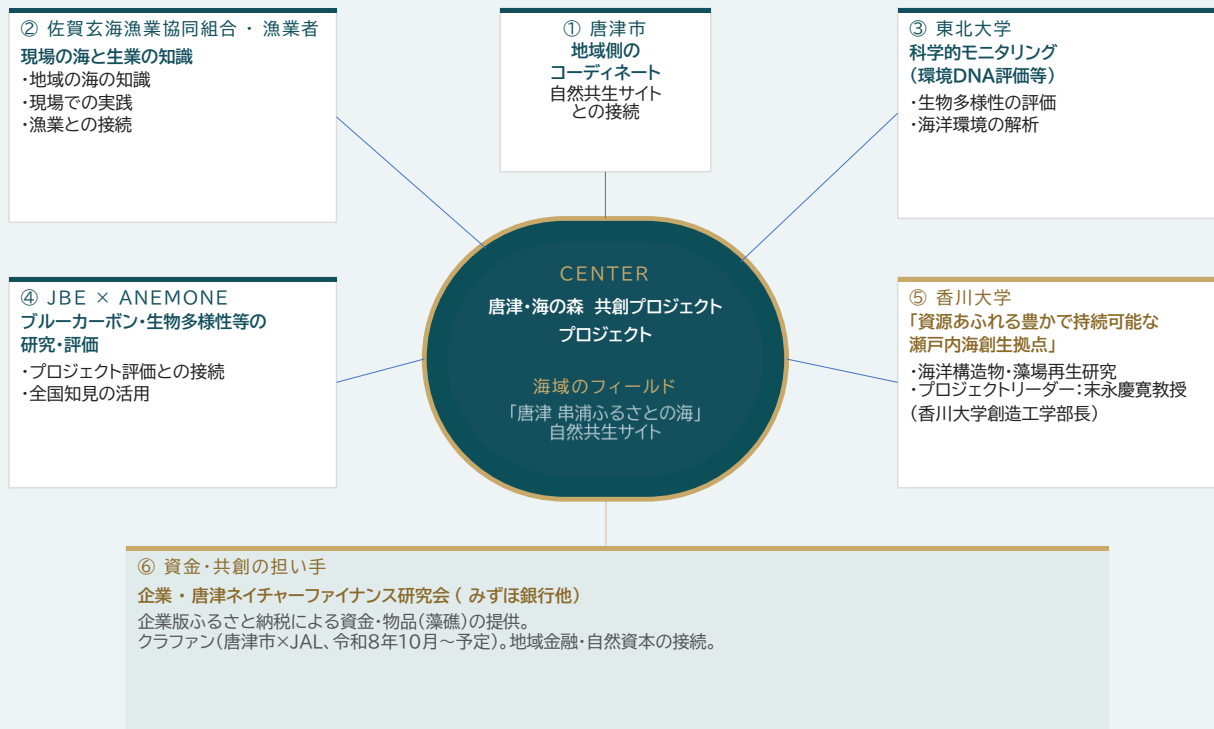


藻礁の比較検討を通じて、
藻場形成／生物多様性／海洋環境／ブルーカーボン／地域漁業
などを科学的に把握し、
地域に適した自然再生・環境保全のあり方を検討する。

【令和8年度の到達点】
研究・実証・共創への発展が始まった

「唐津・海の森共創プロジェクト」― 全体像

― 海の自然再生を「地域共創型研究」へ ―



CYCLE

地域の循環

地域の課題

藻場の衰退、生物多様性、海洋環境変化、漁業影響



科学的評価

東北大学／JBE・ANEMONE／香川大学



企業・大学との共創



地域資源の価値化

藻場再生 ⇒ ブルーカーボン ⇒ 漁業・地域経済へ

唐津市鎮西町串における

～J-ブルークレジット × 連携増進実施計画（自然共生サイト） × 生物多様性価値～

唐津市・袈裟丸氏（佐賀玄海漁業協同組合）・東北大学と連携し、藻場等の再生を通じたブルーカーボンの創出及びその生態系が育む多様な生物の保全機能に注目し、生物多様性増進促進法に基づく連携増進実施計画（自然共生サイト）の認定制度との連携に加え、生物多様性の価値を明示的に乗せたクレジット創出を目指す。



藻場再生によるCO₂吸収に加え、Jブルークレジットに生物多様性の保全効果を加味した“カーボン・クレジット”として展開する。これにより、企業は単なるカーボンオフセットにとどまらず、「自然と共生する社会づくり」への貢献を明確に可視化でき、CSRやESG戦略に活用しやすくなる。加えて、藻場の魚類・貝類・海藻などの調査結果をデータ化し、生きものや海を守る購買行動として訴求する。

さらに、本市が中心となり学校や観光と連携した体験プログラムと組み合わせることで、地域教育や交流促進にも資する仕組みとし、企業や市民を巻き込んだネイチャーポジティブな循環型モデルの構築を目指す。

「行政予算」だけに依存しない、地域共創型の資金調達

令和8～10年度

自治体一般財源を使用せず、地域内外の「共創」と「資金」を組み合わせる事業を推進

柱 ①

企業版ふるさと納税

6,982千円

令和8年10月21日現在・予定を含む

資金 + 物品(藻礁)

地域企業による自然再生への投資

【性質】

自治体一般財源に頼らず、地域企業の資金を長期・多年度で得る。

柱 ②

クラウドファンディング

唐津市 × JAL

実施予定: 令和8年10月～

目標 2,000千円

個人・地域外の関係人口等からの資金調達



JALふるさとクラウドファンディング

【性質】

地域外の共感者を関係人口・ファンとして取り込む入口となる。

柱 ③

大学・研究機関との共創

東北大学

JBE × ANEMONE

香川大学

「資源あふれる豊かで持続可能な
瀬戸内海創生拠点」

資金だけではなく、研究・技術・知見を獲得

【性質】

自治体が研究・知見を買うのではなく、共に問いを立てる関係。

柱 ④

金融との接続

唐津ネイチャーファイナンス研究会

ネイチャーポジティブと
地域金融・資金循環を接続



【性質】

自然資本を資金循環の入口として地域金融と接続する。

強調メッセージ

「行政がすべてを負担する」のではなく、
地域課題を“共創テーマ”として提示し、
社会・企業・大学・金融から資源を集める。

注: 企業版ふるさと納税額は令和8年8月26日現在・予定を含む。クラファン実施は予定。

一つの事業ではなく、「地域の共創エコシステム」をつくる

中央の「唐津 串浦ふるさとの海」を起点に、6つの機能領域が循環する。

自然環境

藻場 / 生物多様性
ブルーカーボン / 海洋環境

知(研究・学術)

東北大学 / 香川大学 / JBE × ANEMONE
研究機関

地域

・漁業者 / 漁協・地域住民・市民

CORE — 起点

唐津 串浦
ふるさとの海

自然共生サイト
令和7年度・連携増進実施計画認定

金融

唐津ネイチャーファイナンス研究会
みずほ銀行
自然資本と資金の接続

資金

・企業版ふるさと納税
・個人版ふるさと納税
・クラファン・企業協賛・寄附

外周 — 唐津市

「つなぐ・組み合わせる・地域に実装する」

自然 → 研究 → 価値化 → 資金 → 再投資 → 自然

単なる放射型ではなく、6つの機能が循環する「共創エコシステム」

令和8～10年度の到達点

自然共生サイトを起点に、地域の未来へ 資金・人・技術を循環させる



最後の一言

「自然を守る」から、
「自然を起点に地域の未来をつくる」へ。

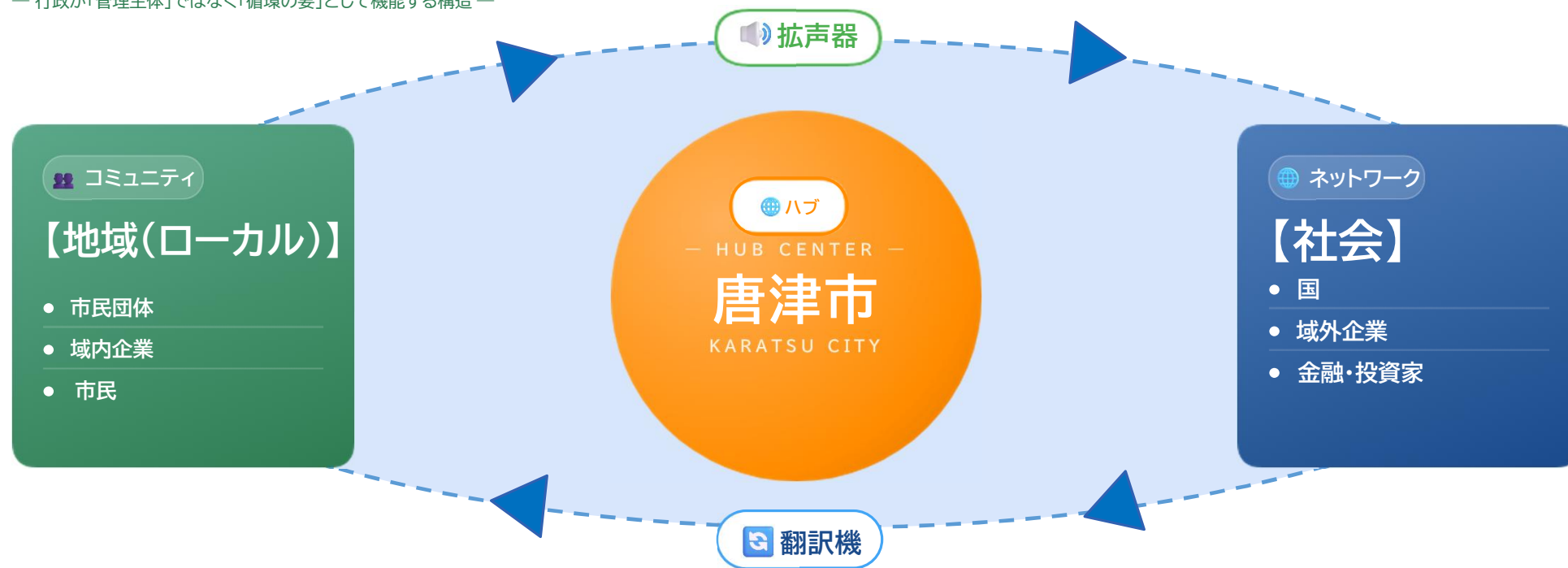
唐津市 × 地域 × 大学 × 企業 × 金融 × 市民

令和8～10年度：藻礁比較検討プロジェクトを実証・発展 ― 自然共生サイトを、地域の未来を共創するプラットフォームへ。

行政の役割

唐津市の役割： 地域と社会をつなぐ「翻訳機・拡声器・ハブ」

— 行政が「管理主体」ではなく「循環の要」として機能する構造 —



(地域) → 唐津市:拡声 → (社会) → 唐津市:翻訳 → (地域)

地域の力を社会へ届け、社会の力を地域へ還す
唐津市が循環の要となる地域循環共生圏

複数アプローチを組み合わせる

単独施策 = 「点」



⚠ 課題

それぞれの施策が孤立し、効果が限定的。地域全体の課題解決につながりにくい。



補完・連携

連携施策 = 「面」



💡 成果

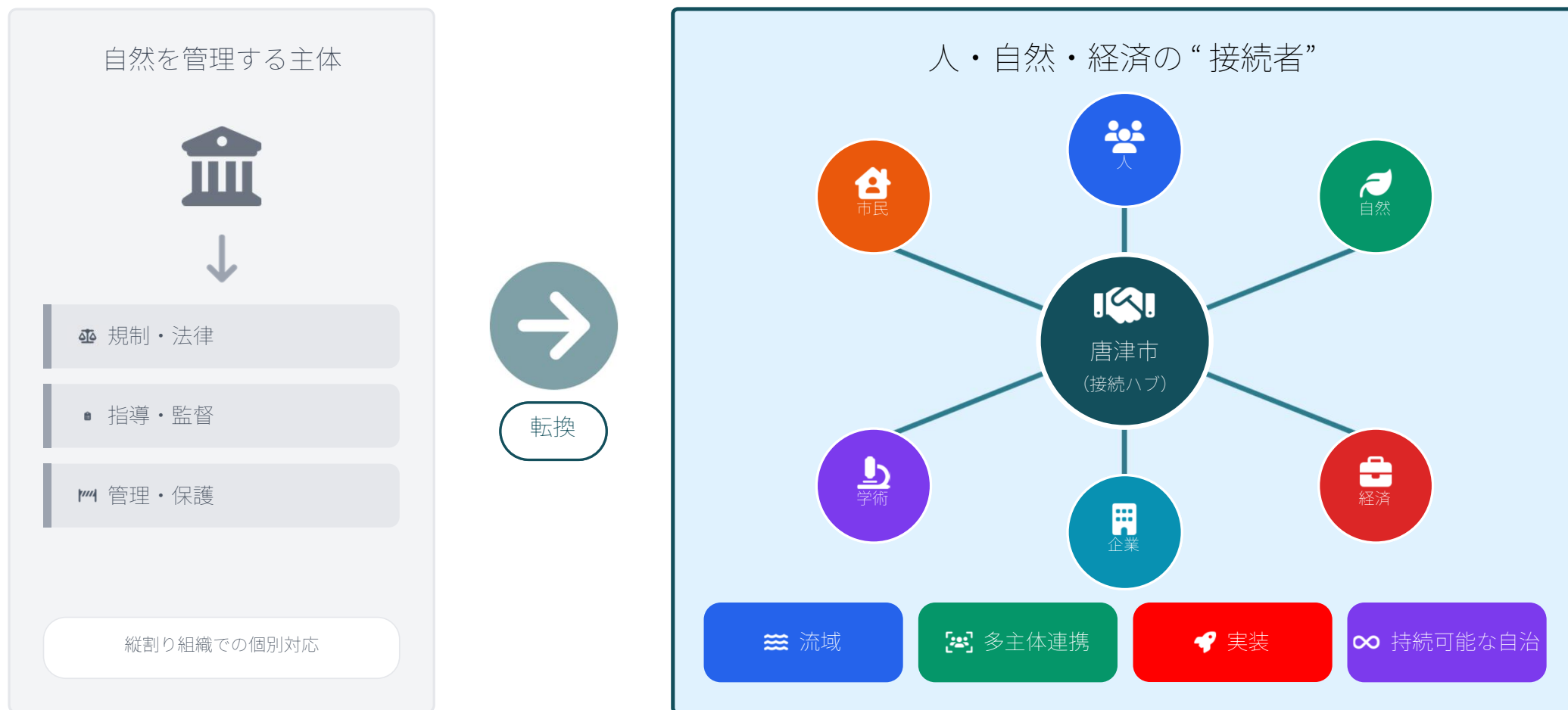
多様なアプローチが補完し合い、シナジー効果で地域全体のレベルを上げる。

$$1 + 1 + 1 + 1 + 1 \neq 5$$

$$1 + 1 + 1 + 1 + 1 = 10_+$$

全体最適化による価値創出

唐津市が担う役割の転換



プラットフォーム型行政への進化

多様な主体が関わる場を作り、地域全体の価値を引き出す

環境（自然）だけの仕事ではない

ここが自治体として、とても大事

環境（自然）だけで完結するものではありません

観光 × 自然

農業 × 生物多様性

林業 × 森林

漁業 × 海

教育 × 自然体験

企業 × 自然共生サイト

金融 × ネイチャーポジティブ

国の枠組みも、連携の道具として位置付けられています

生物多様性地域戦略 — 自然共生サイト — 地域循環共生圏 — PES

環境省は、これらを地域でのネイチャーポジティブ実現に向けた手段として位置付けています。

一緒に活動する仲間を募集中！！

karatsu

唐津市

環境課

自然を守るを
仕事に

百年先の里山と里海へ

地域おこし協力隊『からつネイチャーパートナー』募集2名

2026.10.9(金)～11.30(月) 正午 締切|詳細・応募は募集ページへ|唐津市環境課



最後のメッセージ

ネイチャーポジティブとは、
「自然を守るために地域を変えること」
だけではなく、

「地域が目指す未来を実現するために、
自然との関係をもう一度デザインすること」

地域には地域のネイチャーポジティブがある。

その答えを見つけるために

「私たちは、どんな地域を残したいのか？」
から考えてみる。